

西洋史概説Ⅱ

科目ナンバリング HEA-102
選択必修 2単位

石川 敬史

1. 授業の概要(ねらい)

この授業は、西洋史を概観することを通して、「西洋とは何か」について、受講者各人が自分自身の識見を修養することを目的としています。私たちが身をおく、現代の国家システム、あるいは基本的人権のような法概念や、民主主義といった政治思想、今日の諸国家による外交システム、さらには大学制度といったものは、西洋の歴史的文脈から多分に偶然生まれたものでした。この授業では、「西洋という規範」がどのような歴史的経緯から形成されてきたのかを学修します。(※大学での学びを「学修」といいます)

高校までの世界史とは一味違う角度から、教養としての西洋史を学ぶ機会としてください。日本史に関心のある方にとっても、東洋史に関心のある方にとっても有益な視点が得られるでしょう。

西洋史は多くの場合、古代・中世・初期近代・近代と便宜上区分されるが、この西洋史概説Ⅱでは、初期近代から近現代までを射程とします。

2. 授業の到達目標

人間や社会のあり方を幅広く俯瞰的にみるための見識を獲得し、それを他者に説明できるようになる。
自分が読むべき自分で探し出せるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

二回の小テストによる評価20%

本授業最終日に行う論述式試験による評価80%

※小テストの日程については、授業の進行状況によって調整が必要となるため、授業内で指示します。

4. 教科書・参考文献

教科書

教科書は特に指定せず、講義毎にレジュメ・資料を配布する。

その他、参照すべき文献は、授業で適宜紹介する。

参考文献

金澤周作監修 『論点・西洋史学』(2013年) ミネルヴァ書房

山下範久編著 『教養としての世界史の学び方』(2019年) 東洋経済新報社

5. 準備学修の内容

前の講義時に配布したレジュメ・資料の内容を確認しておく。

自分が何を理解し、何が理解できなかったのかを明らかにしておく。

授業で紹介した文献の該当箇所を読んでおく。

6. その他履修上の注意事項

高校までの世界史の授業とは大きく異なるので、まずは復習を中心に学修しておくことを勧めます。

質問は随時受け付けるので、積極的な姿勢で授業に臨むことを願います。

第1週目はLMSのオンライン授業になります。

第14週目の授業とは別に、LMSのオンライン授業によって全体の総括講義を行います。

7. 授業内容

【第1回】 ガイダンス
本講義の概要と意義、学修方法について詳細な説明を行う。

【第2回】 絶対王政成立の契機(1)
1.聖王秩序から世俗秩序へ
2.コンフェッションナリズムの時代
3.30年戦争からウエストファリア条約

【第3回】 絶対王政成立の契機(2)
1.ウエストファリア条約についての様々な見解
2.主権とは何か
3.絶対王政の諸相—フランス、イギリスを中心に

【第4回】 社会契約思想
1.イングランド内乱
2.ホッブズの政治思想
3.ロックの政治思想

【第5回】 前半の総括講義

【第6回】 アメリカ革命(1)
1.ヨーロッパ人のアメリカ大陸への入植
2.イギリス領北アメリカ植民地の形成史
3.その他のアメリカ領植民地の諸相

【第7回】 アメリカ革命(1)
1.反英抵抗運動から革命へ
2.アメリカ独立宣言の政治思想史
3.アメリカ独立宣言の世界史

【第8回】 フランス革命(1)
1.ルソーの政治思想
2.旧体制のフランス社会

【第9回】 フランス革命(2)
1.フランス革命とフランス革命批判
2.保守主義思想の形成

- 【第10回】 19世紀の欧米の政治状況
 - 1. 国民国家の成立
 - 2. 国民国家の受容
 - 3. 資本主義の台頭
- 【第11回】 19世紀の政治思想
 - 1. 社会主義思想
 - 2. マルクスの共産主義思想
- 【第12回】 二つの世界大戦
 - 1. 第一次世界大戦
 - 2. 第二次世界大戦
- 【第13回】 20世紀の社会思想
 - 1. 米ソ冷戦
 - 2. 冷戦下の国際政治
 - 3. 冷戦の終焉とそこから発生した諸問題
- 【第14回】 まとめと試験(60分)
- 【第15回】 民主主義と今後について
LMSのオンライン授業によって全体の総括講義を行う